令和４年度「研究構想」について

３月１日（火）校長
現職教育研究協議会

１ 令和４年度研究主題・副主題

一人も取り残さない「わかる」授業システムの構築
～ リーディングスキル・自力解決・振り返りを通して ～

２ 研究主題・副主題について

（１）なぜ「わかる」にしたのか

① 以前は、知識と技能が分かれており、「わかる」と「できる」は別個のものと考えられていた。今は、１つの観点から両者は捉えられている。

② わかる・できるというが、できるためにはわかる必要がある。わかればできる。だからわかる授業が求められる。

③ できないとできるの間には、わかるという段階があり、ここでわかることができると、できるようになる。そして、できるようになると、もっと深くわかる。
「わかる→できる→もっと深くわかる」

（２）日頃の授業で意識したいこと

① 通常の授業を根本から変えるのは難しい。

② 「読めばわかるはず」「言えば伝わるはず」「わかった？わかりました」では、わかっていない生徒がいることを前提に授業を設計する。

③ 「少し変える」「こんなところを気を付ける」「確実に授業で実施する」にはどうしたらよいかを考える。

④ 授業は、教科・単元のねらいの達成が主目的であり、リーディングスキルテスト（ＲＳＴ）のための授業をしない。

⑤ 「係り受け解析」「照応解決」は毎時間意識する。文の構造の理解や照応先がわからないと、誤った知識を獲得してしまう可能性がある。自学自習ができない。

３ 研究仮説

各教科の授業において、次の手立てを講じれば、生徒にとって「わかる」授業を展開することができるであろう。

〈手立て①〉学習課題の共書きを行い、文言の中の生徒にとって親密度の低い言葉を取り上げる。

〈手立て②〉全ての生徒がじっくりと考えることができる学習課題を吟味し、自力解決の時間を保障し、考えたことを書かせるようにする。

〈手立て③〉振り返りの時間を確保し、視点を明確にして生徒に書かせる。

［今後の見通し］

（１）〈手立て①〉については、以下のとおり４月当初の授業から実践していく。

１） ２分前着席
２） １分前学習
３）【共書きの手順】
❶ 授業者が学習課題を生徒に聞こえるようにゆっくりと言う。
❷ 「先生と同じスピードで学習課題を書きます」と言って、授業者が学習課題をゆっくりと板書する。
❸ （学習課題をみんなで声を合わせて読む）
４）学習課題の中で、生徒にとって親密度の低い言葉を取り上げて、説明したり、生徒に問いかけたりする。

（２）「共書き」の進め方

ステップ１：視写の段階　　４月～５月 ※ 授業（生徒）では「共書き」という用語を使わない。

ステップ２：聴写＋視写の段階　６月～

ステップ３：聴写の段階　　未定

（３）〈手立て②〉〈手立て③〉については、さらに検討を加えていく。

この研究は、「主体的・対話的で深い学び」のうち、「主体的な学び」に大きく関わる。

４ 情報提供

（１）新井紀子先生などのお話から

① リーディングスキルテスト（ＲＳＴ）

○ リーディングスキルテスト（ＲＳＴ）と学力には強い相関、深い相関がある。

○ リーディングスキルは「汎用的読解力」であり、リーディングスキルテスト（ＲＳＴ）は、汎用的読解力のうち、２００字程度の短文の読解力（汎用的基礎読解力）を測るものである。暗記した知識を問うのではない。

○ 物語・小説の主人公の気持ちを考える、詩や俳句の鑑賞などはリーディングスキルテスト（ＲＳＴ）の出題対象外である。

○ リーディングスキルテスト（ＲＳＴ）を受けっ放しにしない。この子の読解力を引き上げられなかった学校、自治体の責任と考える。

○ 次年度からＲＳＴを受検すると、「振り返りシート」が提供される。

○ ＲＳＴが測るタイプの読解力では、学年が進むにつれて分散が大きくなる。すると、授業が困難になる。

○ ＲＳＴを毎年、健康診断だと思って受検してほしい。結果がよければ、イメージ同定や推論などに取り組めばよい。

○ ＲＳＴの意義は、主に診断的評価にある。

② 少しだけ心がける。その３００日の結果、じわじわと上がってくる。学級崩壊が落ち着いてくる。

③ 読解力の有無が生徒の可能性を大きく左右する。

④ 「教科書を読める生徒にして卒業させるにはどうしたらよいだろうか」を常に意識することが大切である。

⑤ 「教科書を正確に読むとはこんなに骨の折れることだったのか」と、読解の難しさを共有しつつ、共に成長する。

⑥ 最近のデータでは、「教室の半分の生徒は教科書を読めていない」１／３ではない。

（２）「共書き」の効果

① ちゃんと書こうとするため集中力がつく。ボーッとしてしまったり上の空になりやすいのが治る。

② 書くスピードが上がるため、高校に進んでも書き遅れない。

③ 授業者と生徒が同時に書き終えるため、時間が短縮できる。授業にいいリズムができる。